

森美術館 2018年度企画展スケジュールのご案内

2018年度、開館15周年を迎える森美術館は、3つの展覧会を開催します。古代から現代までの日本の建築を概観し、そこに流れる本質に迫る「建築の日本展：その遺伝子のもたらすもの」で幕を開け、続いて世界各地で絶えることのない惨事を背景に、明日を生き抜く原動力としての「アート之力」について考察する「カタストロフと美術のちから展」を開催。15周年の最後を飾るのは、森美術館が3年に一度開催している日本のアートシーンを定点観測的に総覧する展覧会シリーズの第6弾「六本木クロッシング2019展」(仮題)。「東京オリンピック・パラリンピック」を翌年に控えたこの機に、日本のアートやクリエイションについて広い視野からの検証を試みます。是非、ご期待ください。

■ 2018年度企画展

建築の日本展：その遺伝子のもたらすもの

会期：2018年4月25日[水]–9月17日[月]

《香川県庁舎》
丹下都市建築設計
1959年
香川
撮影：市川靖史
画像提供：香川県



カタストロフと美術のちから展

会期：2018年10月6日[土]–2019年1月20日[日]

加藤 翼
《The Lighthouses - 11.3 PROJECT》
2011年
プロジェクトの記録写真
撮影：宮島径
Courtesy: 無人島プロダクション



六本木クロッシング2019展 (仮題)

会期：2019年2月9日[土]–5月26日[日]

展示風景：「六本木クロッシング2019展：僕の身体、あなたの声」
森美術館、2016年
撮影：永禮 賢



プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤、成田

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

* 展覧会情報は変更される場合があります。最新情報は直接お問い合わせください。

建築の日本展：その遺伝子のもたらすもの

会期：2018年4月25日[水]-9月17日[月]

会場：森美術館 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階

主催：森美術館

企画：南條史生(森美術館館長)、前田尚武(森美術館建築・デザインプログラムマネジャー)、
徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)、倉方俊輔(建築史家/大阪市立大学大学院工学研究科准教授)、
ケン・タダシ・オオシマ(建築史家/ワシントン大学教授)

日本の伝統建築は、その文化財的価値を認められ、フランク・ロイド・ライト、ブルーノ・タウトなど、20世紀を代表する近代建築家たちに強い影響を与えました。若き日のライトは、1893年のシカゴ万博で初めて日本の伝統的空間に接し、そこに20世紀の近代建築が目指すべき空間性を発見、独自のスタイルを確立したといわれています。日本においては、伝統を再考し、新たな建築の可能性を模索してきた丹下健三、谷口吉生、隈研吾などが国際的にも高い評価を得てきました。これまで数多くの日本人建築家が、建築界のノーベル賞と称されるプリツカー賞を受賞しています。日本の現代建築がこれほどまでに国際的に注目される背景には、古代より現代に受け継がれる日本建築の遺伝子が存在し、創作において潜在的な影響を与えているからとは考えられないでしょうか。

本展は、日本の古建築と近現代の建築を比較分析し、その表現の差異や継承を貴重な資料や模型、体験型インスタレーションの展示を通して顕在化させるこれまでにない建築展です。現代建築がグローバルに均質化するいま、歴史を踏まえ、日本の建築を概観することは、独自性ある都市や建築の未来を考える絶好の機会となるでしょう。



《鈴木大拙館》
谷口建築設計研究所
2011年
金沢
撮影：北嶋俊治

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤、成田

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

* 展覧会情報は変更される場合があります。最新情報は直接お問い合わせください。

カタストロフと美術のちから展

会期：2018年10月6日[土]-2019年1月20日[月]

会場：森美術館 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階

主催：森美術館

企画：近藤健一(森美術館キュレーター)

東日本大震災やアメリカ同時多発テロ、リーマンショックなど世界各地で絶えず発生するカタストロフ。多くのアーティストがこのような悲劇的な災禍を主題に、惨事を世に知らしめ、後世に語り継ぐと作品を制作しています。その私的な視点による記録は、マスメディアの客観性を重んじる記録とは異なり、多勢の世論の影に隠れて見えにくくなったもう1つの事実を私たちに提示します。そこにはまた、社会の矛盾や隠蔽された問題の可視化を意図するものや、個人的な喪失や悼みを表現するものもあります。

カタストロフは私たちを絶望に追いこみますが、そこから再起しようとする力は、想像力を刺激し、創造の契機となることも事実なのではないでしょうか。東日本大震災発生後、国内外の数多くのアーティストがより良い社会のために活動を続けていることはその一例です。彼らは復興・再生への願いを込めて理想や希望を描き、新しいヴィジョンを提示しようとして試みているのです。

本展は、戦争やテロ、難民問題や環境破壊など、危機的な問題が山積する今日、国際的に活躍する現代美術界のスター作家から気鋭の若手まで、その作品を通して負を正に転ずる力学としての「アートのか」について考察します。

(出展予定作家) ※姓のアルファベット順

藤井 光、畠山直哉、モナ・ハトゥム、トーマス・ヒルシュホーン、アイザック・ジュリアン、ヒワ・K、加藤 翼、エヴァ&フランコ・マッテス、宮本隆司、ジョルジュ・ルース、ヘルムット・スタラーツ、スウーン、ジリアン・ウェアリング ほか



スウーン

《水没した母なる地》2014年

ミクスト・メディア・インスタレーション

展示風景：「スウーン：水没した母なる地」ブルックリン美術館、2014年

撮影：トッド・シーリー

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤、成田

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

* 展覧会情報は変更される場合があります。最新情報は直接お問い合わせください。

六本木クロッシング2019展（仮題）

会期：2019年2月9日[土] -5月26日[日]

会場：森美術館 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階

主催：森美術館

企画：椿 玲子(森美術館キュレーター)、徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)、
熊倉晴子(森美術館アシスタント・キュレーター)

「六本木クロッシング」は、森美術館が3年に一度、日本のアートシーンを総覧する定点観測的な展覧会として2004年から開催しているシリーズ展です。森美術館のキュレーターが数名のゲスト・キュレーターと共同で企画し、複数の視点の交差によって日本人アーティスト20~40名を選出します。既に国際的な活躍が目覚ましいベテランから今後の活躍が期待される新進気鋭の若手まで、また、現代美術のみならず、建築、ファッション、デザイン、パフォーマンス、演劇、ストリートアートなど、多ジャンルのクリエイターを紹介してきたことも、創造活動の^{クロッシング}交差点となる展覧会を目指した本シリーズの特徴です。

第6回目となる「六本木クロッシング2019展」では、森美術館の3人のキュレーターが共同キュレーションをする予定です。翌2020年に「東京オリンピック・パラリンピック」を控え、世界から日本への注目が一層高まるこの時期に、日本の現代アートやクリエイションとは何かをあらためて広い視野から検証します。



展示風景：「六本木クロッシング2010展：
芸術は可能か？」
森美術館、2010年
撮影：木奥恵三

最新のプレス画像は、森美術館ウェブサイトのプレス画像ストックより申請、ダウンロードいただけます。

<https://press.mori.art.museum/jp/press-img/>

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤、成田

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

* 展覧会情報は変更される場合があります。最新情報は直接お問い合わせください。